

令和 7 年度 在外研究員 報告書

所 属	理工学部 教養教育 学科	職名・氏名	准教授・大知 聖子
調査研究題目	テキストマイニングを用いた北朝墓誌の分析		
研究先国	台湾	研究機関	中央研究院
研究期間	令和 7 年 4 月 1 日 ~ 令和 8 年 3 月 31 日		

私は 2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日のちょうど一年間、台湾の中央研究院にて在外研究を行った。中央研究院は政府が設立した研究施設であり、台湾では最高水準の研究環境を備えている。日本においては学術会議に該当するが、日本の場合は他大学の学者を中心に集めた組織であるのに対し、台湾ではわざわざ専門の施設を設けて専門の研究者を雇用した大学とは異なる研究所になっている。データベースは台湾・中国・日本・欧米の多種多様なものを備えており、日本国内においては東京大学かそれ以上に充実していた。自分の研究に直接関係する北朝墓誌のデータベースを共同研究室にて自分のパソコンで自由に使える状態であったため、史料収集が捗った。また所属の研究員は学生や授業を担当せず、研究に専念できるポジションにあった。そのため、研究に割ける時間的余裕があり、私の在外研究中にもお互いに意見を交換し合えるような機会を多く持つことができた。また、研究環境が優れているため、海外から多くの研究者がこの中央研究院にて在外研究を行っており、台湾に居ながらにして欧米の研究者と交流できた点がとても良かった。私は実際にドイツやアメリカの研究者とお互いの研究について話し合い、帰国後も学問上の交流が継続できるほど深い交流をすることができた。また、台北には中央研究院をはじめ台湾大学など一流の大学が揃っており、学内では毎日のように学会や研究会が行われ、自由に聴講できる状態であった。その発表者は台湾の研究者だけではなく、わざわざ海外から著名人を招いて講演も行っていた。私は特に『客観性』という本を著した科学史研究の第一人者、ロレイン・ダントン氏の講演を拝聴できたことが印象に残っている。本来なら欧米の学会や講演会でしか出会えないような研究者の発表を直接聞くことができたのは得難い経験であった。

図書館についても充実しており、各研究所がそれぞれの図書室を所有していた。そのため、自分が必要な本がもし貸し出し中でも、別の研究所の図書室に行けば借りられる状態であったのが助かった。ちなみに中央研究院では私のような訪問学者でも、50 冊まで貸し出し可能であり、しかも三ヶ月借りた後にさらに三ヶ月延長できる恵まれた条件であった。

私は中国語の教員であるため、中国語を使って積極的に台湾の研究者と交流した。そのため、学会発表を依頼される機会が増え、在外研究中に台湾で数多くの学会発表を行った。それ以外にも自分から国際学会にアプライして採用された場合は学会発表を行った。この一年間で 12 回学会発表を行っており、まさに研究に専念できるからこそその成果となった。特に中央研究院の訪問学者としての一年間の研究成果を発表する機会に恵まれ、2026 年 3 月に史語所にて発表を行った際には、私の受け入れ担当である鄭雅如先生が司会を務めてくださっただけでなく、多くの研究者が集まり活発な質疑応答が行われた。中国史の一流の専門家から意見を聞ける貴重な機会であった。論文についても既に三本が公開され、さらに三本を執筆中である。具体的な学会発表および論文は以下の通りである。

< 学会発表 >

- ・「基於北魏墓誌的數位人文研究」、國立臺北大學歷史學系學術講演(台湾) 2025 年 5 月 12 日
- ・「Text Mining Gender Depictions in Epitaphs Verses from Northern Wei China」
DH2025(Lisbon) 2025 年 7 月 17 日
- ・「梶山智史「北魏の洛陽遷都と石刻活動：「弔比干碑」を中心に」コメント」
第二十五回魏晉南北朝史研究会大会（お茶の水女子大学） 2025 年 9 月 13 日
- ・「生成式人工智慧對歷史教育的影響與風險」AI 時代中的人文主義（台湾輔仁大学）
2025 年 9 月 26 日
- ・「北魏墓誌銘的文本挖掘分析方法－KH Coder・Chinese Text Project・SPSS・Guwen BERT」
石刻文獻與中古文化系列講演(臺灣國立中正大學) 2025 年 10 月 23 日
- ・「數位人文研究對中國中古史的影響與發展：從資料庫到文本挖掘再到人工智慧」
Doing Chinese History in Taiwan and around the World, 1985-2025（台湾中央研究院）
2025 年 11 月 12 日
- ・「生成 AI と歴史学の仕組みからフェイクニュースの影響について考える」
日韓歴史家会議（ソウル） 2025 年 11 月 15 日
- ・「基於文本挖掘的北魏墓誌分析及生成人工智慧的解讀與驗證」
DADH2025(國立臺灣大學) 2025 年 11 月 30 日

・「北魏墓誌中の海洋話語研究」

東亞山海文化島鏈國際學術論壇(臺灣國立中正大學) 2025 年 12 月 16 日

・「從北魏墓誌銘的詞彙意義和發音的角度進行性別研究：運用文本挖掘技術」

早期中國史研究會 2025 年度會員大會(國立臺灣大學) 2025 年 12 月 20 日

・「生成式人工智慧對歷史教育的影響與危險」

銘傳大學 東亞地方志的理論與實踐：台日學者交流座談會 (台灣) 2026 年 3 月 13 日

・「基於北魏墓誌銘辭相似性的社會網絡分析：運用文本挖掘分析法」

中央研究院史語所專題演講(台灣) 2026 年 3 月 17 日

・「探索性資料分析在北魏墓誌研究中的應用與實踐」

暨南國際大學歷史學系講演 (台灣) 2026 年 3 月 24 日

< 論文 >

・「北魏墓誌を用いたジェンダー研究 —宮女墓誌を手掛かりとして—」、『東方學報』 (100)、359-390 ページ、2025 年 12 月

・「音象徴からみる北魏墓誌の疊語のジェンダー性」、『未名玉沙集林 遊佐徹教授退休記念論集』、吉備人出版、57-79 ページ、2026 年 3 月

・「補論：歴史学と生成 AI」、『文明動態学』 4、123-129 ページ、2026 年 3 月